

枚方中国語を学ぶ会だより

2023年5月号
枚方中国語を学ぶ会

よそおいも新たに2023年度がスタート

コロナ禍で対面でのサークル活動が難しくなったり、国と国との政治的関係では日中関係が芳しくない状況の中、「新しい仲間に入ってもらえるだろうか」という心配がありました。

しかし、4月5日に行なわれた新入会員説明会には15人の方の参加があり、新たな入門班がスタートしました。また、入門班だけでなく、初級班を初め他の班にも新たな加入者がり、それぞれの班でよそおいも新たに2023年度がスタートしました。

参加しませんか

■発音教室

中国語を学ぶ上で発音はとても重要です。四声が異なれば違う意味になってしまいます。xiとshiはカタカナで表記すればシとなってしまうのですが、希望と失望はxi wangとshilwangで決してシーワンではありません。

このように重要な発音。正しい発音を学ぶため、会では毎水曜日、午後5時半から6時半までサンプルザ生涯学習Cで西川会長による発音教室を開催しています。どの班からでも参加可能です。

西川会長との勉強会

毎月最終土曜日の午前10時から、教育文化Cで、中国の高校の教科書を使った勉強会をやっています。じっくり文法を学べます。



新入門班の幹事を担当していただくことになった宮内さんは、「中国語は初めてで、部屋の予約しか分からないのですが、自分にも出来る事を頑張っていきたいと思います」と語っておられます。

今年は、コロナが一定治まる中、授業が対面で実施出来るだけでなく、新入会員歓迎会や合同学習会、中国料理を作る会などのイベントも従来



通りに開催できそうです。また、秋には当会の40周年記念行事や記念誌の発行が予定され、準備が進められています。

ここ3年、対面授業ができない、イベントが開催できないなど、さまざまな制約を乗り越えて学習活動を続けてきましたが、今年度はさらに会が発展することが望まれます。(写真左は入門班のメンバー。右は入門班の授業風景)

西川会長の 中国語余話②

中国文化の「対」思想

久しぶりの登場となりました。皆さん、中国語の上達に励んでおられることと思います。このコーナーも、どうやら中国語そのものよりも、その根底にある文化についての話の方が人気があるようなので、今回も私が気づいたちょっとした日中の違いについて述べてみたいと思います。

これからいよいよ中国旅行に行かれる方が多くなると思います。

観光バスの中から見えていても、何かヒントが見つかると思います。そこで思うのが、中国文化は、「対」の思想が日本より強いのではないかと、ということです。それは、建物や施設(政府・会社・学校・公園等)の入り口の左右の門柱の表示です。日本でしたら、どちらか一方の門柱にその施設の名前が掲げられている場合がありますが、中国では、ほとんど両方の門柱に文字が表示してあります。日本の重要文化財になっている大きなお寺でも、入口正面左右に塔があります。また、農村では、家々の入口左右には赤地に墨書された縁起の良い「春聯」が貼ってあります。